

セブンスデー・アドベンチスト教団

アドベンチスト



March



「故郷に帰るヤコブの心境」

東京中央教会国際部牧師 マーク・デュアート

神の民はこの世では寄留人です(ヘブル11:13 16、ピリピ3:20)。私がはじめて故国を離れて日本に来たときは、ヤコブのように独りぼっちでした。一人の知己もいなければ、この国の文化や言葉や人々についても、あまりよく知りませんでした。ただひとつ「イエス・キリストが日本にはどうしても必要だ」という強い思いに突き動かされて、22年もの間ひた走り、今日に至ったように思います。今私は、住み慣れた第二の故郷を出発するヤコブのように、家族とともに日本を離れようとしています(創世記31:3,17)。ヤコブほど裕福ではないけれども、この22年は実に祝福に満ちた年月でした。

千葉・東京・大阪・奈良・沖縄・横浜の各地に住み奉仕できたことは大きな恵みです。最初の2年間は学生宣教師としての働きでした。原宿の英語学校開設の働きにも関わりました。最初の生徒さん(女生徒でした)が入り口から入って来て受講の申込みをしたときのスタッフのあの興奮ぶりは、今でも忘れられません。もう一つ忘れられないのは、実は初めて見たとき「小さな礼拝堂だなア」と思ったことです。そして、あのパイプオルガンが設置されるときには、部品などが一つ一つ組み立てられていくのをよく眺めに行ったものです。

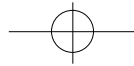
日本を一時離れた私と朱見が再び戻ったのは1982(昭和57)年のことです。今度は、関西での特別プロジェクト、新しい教会を造る仕事に携わりました。これは非常に興味深いプロジェクトであり、私たちの信仰の成長に大きな意味をもつ年月でした。その後沖縄に召しを受けて、国際教会の牧師として5年過ごしました。つづい

て、朱見と私は本州の英語学校のディレクターとして懸命に働き、あっという間に10年が経ちました。また併行して(最初IRCと呼ばれた)TIC(東京国際教会)グループのためにも働きを始めました。数年経ち、グローバリズムの観点からも、日本在住の外国人に対する宣教の必要に迫られるようになりました。これが大きな可能性を秘めた働きであることは明白でありました。リサーチと討議を重ねたのち、JUC(ジャパン・ユニオン・カンファレンス)は、私をインターナショナル・ミニストリーズの責任者に起用したのです。こうした日本での歳月の中で、私は数えきれないほど実に様々な経験を積み重ねてきました。しかし、一つきっぱりと言えること—それは、「神様はすごい!」ということでしょう。

今こうしてアメリカに帰る準備をしながら私は、ちょっぴり故郷に帰るヤコブのような心境です(創世記32:24)。まさにヤコブのように、先輩たちがいわば格闘相手のようにして立ち向かった様々な思いを、私も共有している、そんな気分になることがあります—日本で過ごした私の歳月は、はたして実際にはどれほどの実を稔らせたのだろうかと思いながら...

私がやって来た1976(昭和51)年当時、日本にはクリスチャン人口はとても少なかった。あれから26年も経った今も少ないままです。多くの宣教師が来日し働きを終えて帰国するとき、自分の蒔いた種がいつか芽を出し成長しつづけて実を稔らせ、ご再臨のときまでに多くの尊い魂をイエス・キリストに導くことができるようにと願い、彼らはみな後ろ髪を引かれる思いだったことでしょう。今私も、その一人に加えられよ





うとしています。

自分は最善を尽くしたのだろうか？ 神様のご期待に添えたのだろうか？ 日本における宣教の働きを成し遂げたのだろうか？ 神様が私を日本に召されたその目的を達成したのだろうか？ もちろん、その答えをご存じなのは神様だけです。成就の実証は常に目に見える形で現されるわけではないかも知れませんが、しかし神様がいつも変わらず導いてくださると思うとき、私の心は希望で満たされます。今、その神様が私と家族を、主へのご奉仕の新しい区切りの時へと導いておられるのです。決してあなたを離れずあなたを見棄てないという主の御約束を、私は確信しています(ヘブル13:5)

つまるところ、すべての宣教の成果は、神の御手の中にあります。自分に弱さや至らなさはあったとしても、私の思いはただ、私がいつも神様に栄光を歸し、イエス様を顕すことと御言葉を顕すことに忠実でありたいということでした。私たちは、自分のなすべきことにベストを尽くすようにと教えられています。また、パンを水の上に投げてその結果は神様におまかせするようにと教えられています(伝道の書11:1,6)。ご再臨のときに、イエス様が「忠実な僕よ、よくやった(マタイ25:23)」と仰有るのを聞くことができれば、と願ってやみません。

お別れにあたって日本のSDAの皆さんに希望したいのは、まず福音の増進を阻むすべての障

壁を取り除くことです。その障壁(バリア)の一つは「ガイジン・バリア」です。すなわち、日本人と、他国から来た日本在住の人々の間には人工の壁が横たわっていますが、その因となる言葉や態度や行動や手段などを取り除くのです。人はすべて神様の子供だからです。言葉や文化や皮膚の色が違って、みな同じ創造主の御手によって造られ、共に永遠に生きる間柄なのです。イエス様は、このような私たちすべてのために、血を流してくださったのです。日本に在住のすべての人に、隔てなく福音を伝えましょう！ そうすれば、主の御業は、完成に向かって速度を増すに違いないと私は信じています。

最後に、主にある東京中央教会の兄弟姉妹にお願いがあります。それは「御言葉を宣べ伝えなさい(テモテ 4:2~5)」ということです。福音の聖潔さを安っぽくするような小細工をしたり、世的な轍にはまるようなことは避けなくてはなりません。必要なのは、イエス・キリストです。十字架のメッセージとその意味の理解が必要です。イエス様に対する愛と、人への愛が必要です。私たちが信じるところの真理に従って生きなくてはなりません。私たちのゆるぎない言行一致した信仰と生き方は、私たちを取り巻く朽ちるべき道徳腐敗の暗黒の中にあっても、輝く光となるはずで、神様の召しに忠実に応えましょう。またお会いできるその時まで、神様の豊かな祝福が皆様と共にありますように。私たち家族のことも覚えて、お祈りに加えてください。

「日本と米国を結ぶ架け橋として」

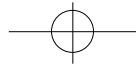
朱見・デュアート

中央教会の皆様、長い間お世話になりありがとうございました。またTIC(東京国際教会)を忍耐強く見守ってくださり、いろんな面でサポートしてくださったことを心から感謝いたします。もっと皆様とお交わりがしたかったのですが、その時間が少なかったことを、とても残念に思います。4月より私たち家族の伝道場がアメリカへと移りますが、私たちの日本での伝道の気持ちは決して変わることはありません。むしろ、今度は、主が私たちを日本と米国を結ぶ架け橋として使って下さり、何らかの形でアメリカから日本の伝道をお手伝いしたいと願っておりますので、皆様、これからもよろしく願いいたします。

最後にこの9年間で増えたことを紹介いたします。息子の数、体重、白髪、TICのメンバー、教会員への愛、主に仕える喜び、そして信仰。

皆様お元気で。





ファミリー

「サキュー!デュアート家」

東京中央教会にマーク先生ご一家が赴任されて9年間、どんなにこの一家から家族伝道の尊さを教えていただいたことでしょうか。マーク先生が作詞作曲された讃美歌『主の愛に結ばれて』のように、いつまでもそれぞれの場にあっても心はひとつ。祈り合い、支え合ってまいりましょう。中央教会員一同、心より感謝申し上げます。

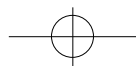


「マーク(商標)は聖書と証の書」

板東 洋三郎

私がマーク・デュアート先生に初めてお会いしたのは、1979年のことです。そのころ私は、一時ロス・アンジェルズに住んでおりました。先生は、日本での働きの休暇で帰国しておられたときだったと思います。先生の熱心なミSSIONナリー・スピリットに意気投合したことを覚えています。やはりそのころ、マウンテン・ビュー近くのご両親のお宅に家族と一緒に泊めていただいたこともありました。奥様の朱見さんとも、確か結婚される前に、大阪でお会いした記憶があります。そのお二人(+4)とご一緒に仕事をするなどということは想像もしていませんでした。先生は、この20年以上の日本でのお働きで、全国の英語学校を通じて大きな貢献をしてくださいました。先生の時かれた福音の種はこれからも実を結んでいくでしょう。マーク先生のマーク(商標)は聖書と証の書です。先生は、そこから毎日の生活に必要な実際の教訓を引き出すことにとても長けた方です。水曜日のミッドウィーク・コネクションでの先生のメッセージから、糧を頂くことを楽しみにしていたひとりとして、少なからずさびしく感じますが、新任の地でも良き働きをなさることと信じています。イエス様が再びいらっしゃるまで、「主の愛に結ばれて」共に前進して参りましょう。マーク先生、ご家族、お元気で!





「主の愛に結ばれて」

主の愛に 結ばれて ころころひとつ
勝利の日 目ざしつつ 手を取り進め
たがいに励まし 歩もう
ふたたび主に 会う朝まで

主の愛に 結ばれし 神の家族
悲しみも よろこびも 分かちて進め
たがいに慰め 歩もう
ふたたび主に 会う朝まで

(作詞作曲 マ・ク・デュアート)

「クリスチャンホームのお手本」

ウォ・タ・ズ・今日子

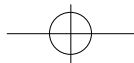
ティモシー君はマーク先生の四男。会うたびにいつもニコニコした笑顔がたまらなくかわいい。彼の笑顔を見るたびにこっちまでニコニコ。私は安息日ごとに小児科の先生達が羨ましくてしかたがありませんでした。「なぜ彼はいつもニコニコしているんだろう？」と、よく話題になりました。答えはいつも「両親や兄弟に愛されているんだよ」と、納得。クリスチャンホームのお手本のようなマーク先生ご一家としばらくお会いできなくなるのはとても淋しいことです。マーク先生が学生宣教師として日本に来られ、朱見さんに恋をし、日本を愛し、22年。ご家族ぐるみの熱心な救霊のお働きを神様は豊かに祝福してくださいました。アメリカの地でも神に愛され、人々に愛され、マーク先生ご一家を通して多くの魂が真理と出会うことでしょう。アメリカでのお働きが終わったら、必ずまた東京中央教会に来てくださいね。みんな待っています。お子様方の成長も楽しみです。みんなMr.ピーンのようになるのでしょうかね。

「父代り母代り医者代りのマーク先生」

横山 絢子

英語学校のキャンプのときです。生徒さんの一人が「マーク先生、ミスター(Mr.)ピーンにそっくり!!」と言うとすぐさま、「わたしはソーイピーン」。その瞬間にもうキャンプの雰囲気はマーク先生の思うままになってしまう不思議なキャラクターのマルチタレントです。マーク先生が牧師の道を選ばなかったら、今頃は何をしていたらっしゃったでしょう。こんなにも人の心を吸い込む賜物を頂いている先生を牧師としてお用いになる神様はすごいです。また英語学校のために学生宣教師を捜すお仕事は、毎年骨身を削るようなご苦労がありがたかったです。7月も末、8月に入ってもヴィザがとれない! 決まった、と思っていた人がキャンセルになったり…。集まってきた学生宣教師のオリエンテーションでのマーク先生は、父代り母代り医者代り、細心の注意をはらって十人十色の若者達を宣教師に育ててゆく…。祈りの人マーク先生が試練も苦難もマタイ5:10~11で乗り切っていたら、どれほど私達も力づけられたことでしょう。あまりにも私達のうちに溶け込んでいらっしまったので、マーク先生のご家族のいらっしない空間がまだ想像できないでいます。ティミーが加わってデュアート・クインテットももうすぐと思っていたのに…。いままた新たな使命を帯びてアメリカにお出でになるマーク先生とご一家を、神様が先導してくださいます。後に残る私達はちょっと孤児みたいかと思うか、いえいえアメリカにお泊りの家ができると考えるか。もちろん後者でしょう。マーク先生、ちょっと大きめの家をお願いします。距離は離れますが神様が中継してくださるのですから。ますます祈り合いながらイエス様のおいでを待ちのぞみましょう。 マラナタ!





「わが信徒の群れに心の糧を与えよ」

TIC長老 ピーター・J.サリヴァンJr.

親愛なるマーク先生、

SDA原宿教会TIC(東京国際教会)を代表して、長年にわたり私たちをお導き下さいましたことに、この上ない感謝の気持ちを申し述べたいと存じます。先生は、聖書を通して神様の御言葉を、噛んで含めるようにして、私たちにお教え下さいました。先生は、牧師としてのご奉仕を極められ、「わが信徒の群れに心の糧を与えよ」との主の召しに、みごとにお応えになりました。

私といたしましては、神様は先生を、TICのために、まさに時に適って、お送り下さったのだと確信しております。とくにこの私が、当教会で精神的に全く行き詰まっていた時に、先生はおいでになりました。希望を失い、もはや死ぬばかりだという、まさにその時に、神様は先生を遣わされ、苦境のさなかにあった私を立ち直らせて下さったのでした。もしもです、もしも先生のお言葉を通して時に適ったこの上ないタイミングで私の精神生活に糧をいただけなかったとしたならば、私の命は永遠に失われていたことでしょう。先生を通して私に賜った恵みの数々を思い、私は、神様への感謝の祈りを一日とて欠かすことはごさいません。神様、とこしえに先生の口に触れていて下さり、先生の口から発せられるお言葉が、どうか罪に病み疲れた魂に、あなた様の御言葉となって伝えられますように。

私どもの住まうこの世にあっては、去らねばならない時が来て、いとおいしい人たちに別れを告げるなどということは、いつも容易にできることではありません。生きるとも死すとも、またいずこにありましても、生活を共にした時が引き裂かれそうになっても、私どもは、いつも愛をもって、－永遠にとは申しません－、ほんのもう少しだけでよい、共にいたいと願わずにはいられません。けれど、この世にあるかぎり、私たちには永遠なるものはありません。時が刻まれるにつれて、すべてのものは過ぎ去っていきます。ですから、好むと好まざるとに拘らず、天の召しのままに、私たちはいとおいしい人たちに別れを告げ、目に涙を浮かべてしっかりと抱き合い、途切れがちの声で「あなたがここにいなくなるなんて!」と、惜別の言葉を口ごもりながら発するのです。そうです、このお別れはこの世で避けられない出来事の一つなのです。とは言え、いつまでもこのままではないはずだ。なぜならば、素晴らしい場所が、別れなどというものはありえない素晴らしい場所があるからです。

マーク先生、先生をお見送りするのは誠に心痛む思いです。しかしながら、私たちは信じています、神様は、他の場所で仕えよと、あなたを召されたのだと。先生とご家族のために祈ります、神様が先生を常に祝福し、先生がお仕えするそばで、その力強い御腕をもって、また目をしかとそそいで、お導き下さいますように。先生と、この召しに、更にお力をお与え下さい!

マーク先生新住所

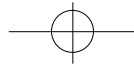
Home:

Mark & Akemi Duarte
200 Montebello Avenue #1
Mountain View, California 94043 USA
Tel. 1-650-390-0448
Fax 1-650-390-0515
Email: markduarte@hotmail.com

Church:

Mountain View Japanese SDA Church
195 North Rengstorff Ave.
Mountain View, California 94043 USA
Tel. 1-650-968-2551
Fax 1-650-968-2758





♪中央教会・心に残る思い出♪

マークJr

TICでの2回の説教。TIC青年リーダーとして担当した午後のプログラム。野尻湖でのTIC修養会。

ジョセフ

毎週安息日の午後に、ミッドウィークコネクションのピラを代々木公園に配りに行ったことや、伝道したこと。短い間だったけど、させてもらったジュニア執事。お父さんの説教を毎週聞けたこと（アメリカでも聞けるので嬉しい）

フィリップ

TICの元旦ハイク。特賛をいっぱいしたこと。サンセット後に時々行った「てんや」（天井屋さん）

ティモシー

大人のお兄さんお姉さんと遊んでもらったこと。昼食。板東先生に毎週会えたこと。家族みんなが特賛しているとき、一番前の席でひとりりで座ること、でも僕は歌っちゃダメだったこと。

寒き午後物憂き時計の音静か
しあわせの光こぼれて春來たる
電話より軽やかな声春遠からじ

さやうならば致しかたなき弥生かな

（保）

（靖子）

聖句と私

中西 聖治

パウロは**甦り**について、「もし死人の復活がないならば、キリストも甦らなかったものであり、キリストが甦らなかったとしたら私たちの信仰もむなし。そうだとすると、キリストにあって眠った者たちは滅んでしまったことになる。もし私たちがキリストにあって単なる望みをいだいてい

るだけだとすると、私たちはすべての人の中で最もあわれむべき存在となる。しかし事実、キリストは眠っている者に初穂として死人の中から甦ったのである。」と語っている（コリ 15:13-19）

先日、叔父の葬儀に出た。長いお経が終わったのち、和尚様が「皆様、永遠のお別れでございます。生前の仏様の好物やお花を入れて下さい。」と言われたとき、すすり泣きが聞こえた。人が甦ることを現実の社会の中で信じることは難しいことかもしれない。事実、私は人が甦るのを見たことがない。しかし、十字架の贖いに対する感謝と、すべてのことに勝利した力を静かに思うとき、キリストの言葉が浮かぶ。

「私は、死んだことがあるが、世に限りなく生きている者である。そして死と黄泉のかぎを持っている。」（ヨハネの黙示録 1:18）

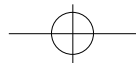
死と黄泉の世界を支配される方が、人を死の世界から解き放たれたとしても、何の不思議もない。そして時が満つれば限りない愛をもって甦りの命を与えて下さるのである。

原宿彩彩

† さようなら、長岡すず子さん

長岡すずさんは、病気ご療養中でしたが、去る2月26日午後1時10分、東京衛生病院にて、実に半世紀にわたって彼女が愛しかつ忠実に仕えてこられた、主イエス・キリストのご再臨を確信しつつ、しばしの眠りにつかれました。87年のご生涯でした。葬儀は27日午後6時半から前夜式が、28日零時から告別式が、当中央教会において、それぞれ千先勉牧師並びに板東洋三郎牧師の司式によって執り行われました。すずさんの柩は色とりどりの花々に囲まれ、その中央に彼女のあの人懐っこい笑顔の写真が飾られていました。親族、教会員はもとより、町内会の方々も多数参列され、故人を偲びました。ご主人をはじめ、ご遺族の上に神様の豊かな慰めがありますように。





「出会いの中にこそ成長がある」

熊谷 幸子

2月19日、東京国際フォーラムで開かれた日野原重明先生の基調講演は、集まった4,000人弱の感動を巻き込んでの至福のプログラムでした。91歳の先生がすっと背を伸ばし、朗々たるお声で立ったまま一時間を語り通されたのです。全部をお伝えできないのは残念ですが、改め学ぶべきヒントがあり、それを少しでもお伝えできればと思います。

若い時は書物から学び、働き盛りには、知識やその道の先達から学んだ先生が、今は、病む者、死にゆく者即ちもっとも弱い者から学んでいますと言われる姿勢。「91歳という私の生命は、65年にわたる医師の仕事の中で、『わたしの分も生きて下さい』と言って先立っていかれた何人もの患者さんからいただいたものです」の証には胸を打つものがありました。そして日々のエネルギーは出会いの中から与えられ、出会いの中にこそ真の成長が秘められていることを、現代の多くの人が抱える疎外感や孤独感を通して指摘されました。おそらくこの出会いには、神との出会いも含まれていることを言葉の端々から感じ取ることができました。

「Having、多くを持つのではなく、Being、人としてどうあるのか。Havingは『外なる世界』の欲望に通じているが、Beingは『内なる世界』の希望に繋がっている。この『内なる世界』にエネルギーを貯え、それを豊かに人に与えるという循環を、今こそ私たちは自分を訓練し、フォーカスを高めて実践しなければいけない。人には必ず一つの与えられたミッションがあり、それを生涯かけて貫いていくことに、この世に生まれ存在することの意味がある…」深い共感を覚えたくだりです。

「愛し、愛されること」「忍ぶこと(特に苦しみを共有する)」「創ること」の三つを自覚して生きる。そうすれば90歳になってもミュージカルに出られますと、先生は「葉っぱのフレディー」を演じた経緯を話されましたが、好奇心もさることながら、牧師を父に讃美歌の中で育ち、大勢の前で歌っていた奉仕の体験があったればこそ？ 幼児期からのアンテナが如何に大切かを省みるエピソードでした。

自立、参加、感謝そしてディグニティー(尊厳。プライドとは違う)が何故加齢と共に益々大切になっていくのか。医師の立場から具体的に、心身に及ぼす影響を例に説明され実感痛感。時に旧約聖書から、時にシェイクスピアの言葉から引用して大いに笑わせ、まさしく「長生きも芸のうち」を目の当たりにした60分でした。

最後にワーズワースの詩の中から「簡素な生活をして、志は高く…」を加えて自然にもっと触れることを勧められ「そうして私は今日まで生きてきました」と結ばれました。

この日野原先生が、一年後の3月、この教会でお話をして下さいます。91歳の先生のご健康のために、またその日のすばらしい出会いを心に覚え、どうぞ今からお祈り下さいませよう。

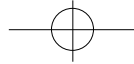
◆ 第1回・家庭会セミナーのお知らせ ◆

テ・マ：「夫婦も他人であればこそ」からの出発

お 話： 及川恵さん

日 時： 3月30日(土) 2時 30分より1時間





牧師によるバイブル豆事典

「シャローム！」～またあう日まで～

「シャローム、シャローム、またあう日まで、シャローム、シャローム、神のみめぐみ...ゆたかに、ゆたかに、ゆたかに」。お別れのときに歌う、子ども賛美歌です。シャロームとは、「神様の平安がありますように」というヘブル語です。

使徒行伝20章には、パウロとエペソの教会の人々との涙の別れの場面が出てきます。おそろくその場で「シャローム」という言葉が飛び交っていたことでしょう。「シャローム」という言葉には否定的な意味はありません。もともとこの言葉は、「人間の最高の幸福を作り出すすべてのもの」という意味を持っていました。東洋では、互いにサラーム(シャロームと同義語)と挨拶する時、相手の人に悪いことが起こらないばかりか、すべて良いことが起こるように願うのです。「シャローム」それは、「さようなら」を意味する単なる別れの挨拶ではなく、すべての幸福を楽しむという人生の在り方をそこに込めた挨拶なのです。

パウロは「聖霊に迫られて」(使徒20:22)エペソの人々に別れを告げ、新しい地に向かいました。聖霊に導かれた人生を歩むことは、その人にとって素晴らしい祝福です。そこに神様のその人に対するご計画があるからです。「別れ」それは私たちにとって決して否定的な響きをもった言葉ではありません。私たちは、そこに神のご計画があることを信じ、感謝したいと思います。春は別れの季節ですが、「別れ」の中にも、万事を益としてくださる神様の素晴らしい御業があることを期待し、相手の祝福と幸福を願い、明るく元気に「シャローム」と挨拶を交わしたいと思います。

(東京中央教会副牧師 花田憲彦)

3月のスケジュール

3 / 2 (土) [説]ウォーターズ今日子副牧師

役員会

長老会

/ 9 (土) [説]花田憲彦副牧師 & 子供の話

世界女性祈りの日 13:30~ 集会室

週報 & アドベンチストはらじゅく発送

小羊クラブ 14:00~

/ 16 (土) [説]山本哲也先生

福音社100周年記念集会 13:30~ 集会室

理事会

/ 23 (土) [説]マーク・デュアート牧師 & 子供の話

洗足・聖餐式

マーク先生送別会 集会室

小羊クラブ 14:00~

/ 30 (土) [説]マーク・デュアート牧師

バプテスマ式

家庭会セミナー お話：及川恵 14:30~ 集会室

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

エデン ED園だより

冷たい風が残っていた「光の春」から三月に入ると、沈丁花の香りが心をときめかせてくれる。椿、クロッカスそしてコブシも春の喜びを表す。春一番の旋風に乗ってスギ花粉が撒き散らされると、くしゃみがあちこちで噴き出す。これは、エデンの園には無かったはずだ。三月は、また、人の移動の季節。この世の営みの中での別れを味わう。しかし、親愛なるマーク先生との霊のつながりは切られない。先生ご一家に主のご加護を祈ります。(Yo)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司

[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517

* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫

